

## 八代未来づくり総合戦略（案）に対する意見募集（パブリックコメント）の結果

- 1 意見募集の期間 令和8年1月23日（金）～令和8年2月13日（金）
- 2 意見の件数 54件
- 3 意見の取扱い

- ・寄せられた意見をもとに、計画（案）の修正を行うものについては、反映欄に「○」を付けています。
- ・上記以外については、今後の参考とさせていただきます。

No.	該当箇所	意見の概要	本市の考え方	反映
1	20ページ 施策【15】 結婚・出産・子育て 支援の充実	【子育てに伴う経済的負担軽減の具体策の明記について】 施策案の中に「経済的負担の軽減」という記載がありますが、具体的な支援策が読み取れません。近隣自治体との定住競争において、これから子育てを始める世代が最も重視するのは、日々の生活に直結する医療費と給食費の負担です。 安心して二人目、三人目を産み育てられる環境を作るため、戦略の中に「高校生までの医療費完全無償化」や「小中学校給食費の無償化」に向けた検討、あるいは段階的な実施について明記していただくことを強く要望します。	本市においては、子育て世帯への経済的負担軽減を図るため、市独自にすべての子どもの保育料無償化や出産祝い金の支給などの施策を行っています。ご意見中の「高校生までの医療費完全無償化」につきましては、「子ども医療費助成」として令和元年10月から高校3年生年代までに年齢を拡充し実施しています。また、「小中学校給食費の無償化」につきましては、国が示している小学校給食費の抜本的な負担軽減（いわゆる給食無償化）の実施方針に合わせて、給食の質・量を維持しながら、中学校も含めた持続可能な経済的負担軽減の制度とすることが重要であると考えています。 なお、具体的な支援策等につきましては、今後、予算を議論する中で検討してまいります。	
2	5ページ 施策【2】 市民サービスの向上 と行財政改革の推進 （千丁支所）、20 ページ 施策【15】 結婚・出産・子育て 支援の充実	【天候に左右されない「屋内型遊び場」の整備について】 千丁支所における「子どもの居場所づくり」の計画には期待しています。 しかし、近年は猛暑やPM2.5、雨天などで公園を利用できない日が増えており、未就学児から小学生が身体を動かして遊べる場所が不足しています。 施策【15】の「子どもの居場所づくり」の一環として、既存施設の活用や千丁支所の機能強化などにより、天候を気にせず親子が過ごせる「大型の屋内遊戯施設（屋内公園）」の整備を具体的に盛り込んでください。 週末に市外へ出かけずとも市内で完結できる魅力的な拠点は、定住促進にも不可欠です。 具体的な整備にあたっては、八代特産である「い草」を床材にふんだんに使用した、乳幼児が転んでも安全な屋内パークを要望します。 近年の八代の夏は酷暑厳しく、PM2.5の影響もあり、小さな子供を公園で遊ばせるのが困難です。週末に「イオン八代」等の商業施設に行かずとも、木の香りや畳の香りに包まれて遊べる公的な場所があれば、千丁発祥のい草文化を肌で感じながら育つ「食育・木育」ならぬ「畳育」にもなり、八代ならではの子育て環境として大きな魅力になります。	子どもの居場所づくりは、少子化や共働き家庭の増加、孤独孤立など現代社会が抱える複合的な課題への対応策として注目されています。屋内遊戯施設（屋内公園）の整備につきましては、これまでもご意見をいただいております。検討を進めていくこととしています。 特に千丁地域は子育て世代が多く居住しており、夏休みなどの長期休暇中の居場所づくりが急務と考えています。そのため、まずは（既存施設の）千丁支所等を活用し、猛暑時でも家庭以外で安心して過ごせる「（屋内の）第三の居場所づくり」を計画しています。なお、その居場所づくりにあたっては、安全面や管理体制、利用ルール等を整理した上で、試験的な取組等を行いながら実施することとしており、八代特産である「い草」を使用した待合室等を利用し、「い草」に触れあう場となるよう検討を行っています。 その他の施設においても整備を行う際には、ご提言にある「い草」を活用した整備など市民の皆さんの提案を反映できるような施設となるよう取り組みます。 なお、具体的な整備等につきましては、今後、予算を議論する中で検討してまいります。	
3	32ページ 施策【25】 生活インフラの強化	【「八代・天草シーライン」の早期実現（家族のレジャーと防災の観点から）】 「八代・天草シーライン構想」について、国への要望活動を行うとの記載がありますが、物流・産業面だけでなく「子育て世代の生活の質（QOL）向上」と「防災」の観点から、より強く推進してください。 私たち子育て世代にとって、天草は子どもに海やイルカを見てあげられる魅力的な場所ですが、現状では移動時間がネックとなり、気軽に行ける距離ではありません。 シーラインが実現すれば、週末に気軽に家族で出かけられるようになり、子どもたちの豊かな体験や思い出づくりの機会が飛躍的に増えます。 また、令和2年7月豪雨で交通網の寸断を目の当たりにした地域として、この道はまさに子どもたちの未来を守る「命の道」です。 単なる「構想」や「要望」の繰り返しで終わらず、私たちが子育てをしている間に実現の目処が立つよう、より具体的なロードマップを示していただきたいです。	八代・天草シーラインの実現は、物流・産業に加え、防災面や子育て世代の生活の質の向上にも大きく寄与するものであり、八代海圏域、ひいては九州全域の広域的振興に繋がるプロジェクトであると考えています。 構想実現に向けた取組としましては、県南地域の市町村によって構成される「八代・天草架橋建設促進期成会」が平成元年に発足して以来、30年以上にわたり、市民シンポジウムの開催や啓発看板、パンフレット作成のほか、調査研究事業や国への要望活動などを行ってまいりました。 そのような中、令和3年に県知事をトップとする「八代・天草シーライン建設促進協議会」が設立され、現在は、熊本県全体の取組として活動を行っているところです。 また、令和3年6月には県、同年7月には国が策定した「新広域道路交通計画」に初めて構想路線として位置づけられました。 さらに、令和6年には、国・県・関係自治体で構成する「八代・天草シーラインに関する勉強会」も発足するなど、近年の八代・天草シーラインを取り巻く環境は、着実に前に進んでいるところです。 現時点で、実施主体や手法が決まっているわけではないため、ロードマップをお示しすることはできませんが、この流れを加速させていくためにも、引き続き、地元の機運醸成を図るとともに、ロードマップ作成に必要な調査・検討に早急に着手することを国に対し強く要望してまいります。	

No.	該当箇所	意見の概要	本市の考え方	反映
4	31ページ 施策【24】 防災・減災のための 基盤整備	【災害時における「乳幼児向け備蓄」の徹底について】 避難所の環境整備において、「食料や飲料水、携帯トイレなど」の備蓄が挙げられていますが、災害時に最も支援が必要な乳幼児への配慮を明文化してください。 具体的には、備蓄品目として「液体ミルク」「使い捨て哺乳瓶」「紙おむつ」「おしりふき」を必須とすることを戦略に明記していただきたいです。 小さな子どもを連れての避難は困難であり、避難所にこれらが常備されていることは、私たち子育て世代にとって大きな安心材料となります。	災害時には乳幼児を連れて避難される方への配慮が極めて重要であり、安心して避難生活を送っていただくための備蓄体制の充実は不可欠であることから、「液体ミルク」、「使い捨て哺乳瓶」、「紙おむつ」等の備蓄も進めております。 総合戦略への明記につきましては、乳幼児のみならず高齢者や障がい者など要配慮者の方が必要とする物資は多岐にわたることから、「食料や飲料水、携帯トイレなど」を「食料や飲料水、携帯トイレ等に加え、乳幼児や高齢者、障がい者など要支援者に配慮した生活必需品など」とし、安心して避難生活を送ることができる環境を整備してまいりたいと考えています。	○
5	21ページ 施策【15】 の重要業績評価指標 (KPI)	【子育て世代の実感が湧くKPI（重要業績評価指標）の設定について】 現在「調整中」となっている施策【15】の指標についてですが、単なる施設の設置数や相談件数といった行政側の指標ではなく、市民の実感を反映した指標の設定をお願いします。 例えば、「子育て世代（20～40代）の転入超過数」や、アンケートによる「子育てしやすさの実感度（満足度）」など、本戦略の成果が可視化される目標値を設定してください。	ご意見のとおり、施設数や相談件数といった活動指標ではなく、市民アンケート等による「子育て環境が整っていると感じる市民の割合」など、成果指標を目標値として設定します。	○
6	9ページ 施策【4】 農林水産物等の販路 開拓・拡大	観光舟出浮をはじめ、女性の活躍が必要であることから、漁協内に女性部を設立することを努力目標にしており、女性部で水産物加工品の販売などを行っていきたい。	ご意見いただきました、各事業者で作られました水産物加工品につきまして、フードバレー推進課へ情報をいただき、販路先等のご意向を確認させていただいた上で、販路開拓・拡大に取り組んでまいります。	
7	9ページ<地域ブランド づくりと農林水産 物等の販路拡大>	フードバレーに関しては、地元での認知度向上も大きな課題と考えられるため、「フードバレーやつしろの気運醸成・地元での認知度向上と・・・」としてはどうか。	ご意見があるように、市としても地元八代での認知度向上は大きな課題と考えておりますので、以下のように記載させていただきます。  ■フードバレーやつしろの気運醸成と地元での認知度向上を推進するとともに、八代の農林水産物を使用した商品開発を行う事業者を支援することで、八代地域の特産品のブランド化と継続的に売れ続ける商品開発に取り組めます。	○
8	9ページ<八代産い草 の新たな活用と販路 開拓>	新たない草の活用方法を検討、開発した上で実際の需要拡大につなげていくことが重要と考えられるため、「八代産い草・畳表の良さを生かしたPRを行うとともに、関連団体と連携し、畳表にとどまらない、新たない草の活用方法の検討、開発を行い、需要拡大を図ります。」としてはどうか。	開発につきましては、<地域ブランドづくりと農林水産物等の拡大>にて、市は「商品開発を行う事業者を支援する」としており、需要拡大につきましては、<八代産い草の新たな活用と販路開拓>にて、「八代産のい草・畳表を活用した商品の販路開拓・拡大に取り組む」としてありますことから、案文のままとさせていただきます。	
9	10ページ<八代港の 活用促進>	クルーズ乗船客の八代地域への周遊を増やすには、他の県南地域と連携した一体的な魅力発信や観光ツアー造成等も重要と考えられるため、「・・・、本市ならではの体験や本市の特性を活かすとともに、県南地域とも連携した観光プログラムの造成などにより、・・・」としてはどうか。	クルーズ船寄港では、県南地域とも連携した事業を展開することは重要であるため、ご意見を踏まえ、下記のとおり修正します。 「クルーズ乗船客の満足度向上のため、本市ならではの体験や地域特性を最大限に活かすとともに、県南地域とも連携した観光プログラムの造成などにより、八代地域の周遊者を増やし、地域全体の活性化を図ります。」	○
10	11ページ<魅力発信 と観光コンテンツの 開発>	県や県南地域の自治体等と連携した取組みとして、従前から広域観光イベント等（物産フェアやサイクルイベント等）も開催されているため、「県や県南地域の自治体等と連携し、広域観光イベントの開催や広域観光ルートのプロモーションを行うなど、・・・」としてはどうか。	ご意見のとおり、本市では従前から熊本県をはじめ、県南地域の自治体等と連携し、物産フェアやサイクルイベント等の広域観光イベントに取り組んでいるところです。 この点を踏まえ、「施策【6】観光資源を活用した賑わいの創出」における「魅力発信と観光コンテンツの開発」の該当箇所を以下の内容に修正します。  ■県や県南地域の自治体等と連携し、広域観光イベントの開催や広域観光ルートのプロモーションを行うなど、滞在時間の延長による観光消費額の増加を図ります。	○
11	12ページ<商業の活 性化と持続的な賑わ いの創出>	八代市においても、事業者の高齢化や後継者不足の中で「事業承継」は大きな課題と考えられるため、「商店街の活性化や新たな事業に挑戦する起業家等の支援、事業者の経営力向上や事業承継の支援に取り組む、・・・」としてはどうか。	事業者の事業承継につきましては、本市としても重要な課題と捉えているところです。 この点を踏まえ、「施策【7】商業振興による賑わいの創出」における「商業の活性化と持続的な賑わいの創出」を以下の内容に修正します。  ■商店街の活性化や新たな事業に挑戦する起業家等の支援、事業者の経営力向上や事業承継の支援に取り組む、商業の活性化と持続的な賑わいの創出を図ることで、映画館など民間事業者の投資を呼び込む、魅力ある街づくりを推進します。	○

No.	該当箇所	意見の概要	本市の考え方	反映
12	13ページ<企業・人材の誘致>	本戦略の計画期間中、企業誘致に関しては、現在県が整備を進めている県営工業団地への誘致が重要な課題であるため、「TSMC進出を契機として、県営工業団地を中心に、・・・」としてはどうか。また、八代地域の喫緊の課題である若者・人材の地元定着・呼び込みには、大学生・社会人等向けの取組みのほか、地元の小・中・高校生向けの取組み（例：地元企業の認知・体験等の機会の提供等）も重要と考えられるため、それらに関する取組み（支援等）についても記載してはどうか。	<p>【企業誘致関係】 現在、龍峯地区で整備中の県営工業団地への誘致は、本市における地域及び産業活性化の起爆剤となり得るため最優先と考える一方で、市全体の均衡ある発展を目指したいと考えています。</p> <p>【人材確保関係】 ご意見のとおり、本市では従前から八代こども科学フェアの開催や高校生と地元企業の意見交換会など、学生と企業が交流できる機会を提供してきたところです。 この点を踏まえ、「施策【8】地域産業への支援と企業・人材の誘致」の該当箇所を以下の内容に追加・修正します。</p> <p>■地元小中高校生を対象とする、地元企業の認知向上や交流機会の提供につながる取組を支援しながら、大学生等を対象とする実践的なインターンシップの実施やSNS等を活用した就労に関する情報発信にも取り組めます。</p> <p>■八代地域の喫緊の課題である人材不足の解消に向けて、国や県、地域団体等と連携し、性別、年齢、国籍、障がいの有無などに捉われない多様な人材が活躍できるような支援に努めます。</p>	○
13	1ページ3～4行目「特に人口減少克服と地方創生に資する施策に重点的に取り組み、一定の成果をあげてきました。」	<p>【意見の趣旨：外国人材および高齢者の就業支援の明確化】 本市の人口減少が一定の抑制を見せている背景には、外国人技能実習生や特定技能外国人の存在が大きく寄与していると考えます。特に農業、建設業、介護等の現場では、彼らは既に欠かせない労働力です。しかし、本戦略案では外国人の就業支援や受け入れ事業所への支援に関する記述が見当たりません。民間任せにせず、市として環境整備に踏み込んで頂きたい。 また、若年層の流出に伴い、今後は外国人だけでなく高齢者の労働力への依存も高まります。意欲ある高齢者が活躍できるよう、積極的な就業支援策を戦略に盛り込むことをお願いします。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえて、「施策【8】地域産業への支援と企業・人材の誘致」に下記の内容を追加いたします。</p> <p>■八代地域の喫緊の課題である人材不足の解消に向けて、国や県、地域団体等と連携し、性別、年齢、国籍、障がいの有無などに捉われない多様な人材が活躍できるような支援に努めます。</p>	○
14	13ページ2～3行目「商工団体が、…経営相談・指導業務などに対して補助金を交付することで、商工業者の経営改善を図る」	<p>【意見の趣旨：経営支援体制の強化と主体的な関与】 現在の表現では「補助金を交付する」という手段のみが強調され、市としての主体性や、支援の質の維持に対する姿勢が見えにくい印象を受けます。文言を「安定した経営支援体制（組織・人員）を維持・向上させるため、市からの安定的な財政支援を行うことで、商工業者の経営改善を強力に推進する」といった、支援基盤を強化する表現に改めていただきたいです。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえて、「施策【8】地域産業への支援と企業・人材の誘致」における「地場産業の経営力向上支援」を以下の内容に修正します。</p> <p>■事業経営に関する幅広い知識と経験を有する商工団体と連携し、安定した経営支援体制を維持・向上させながら、商工業者の経営改善に取り組めます。あわせて、新たな創業や事業承継を支援することで、持続的な商工業の活性化を図ります。また、自己資金だけでは対応が難しい設備更新や新商品開発などの投資を必要とする商工業者へ、市の融資関連制度で資金調達を支援し、事業展開を促進することで、地場産業の経営力向上を図ります。</p>	○
15	13ページ<地場産業の経営力向上支援>	<p>【意見の趣旨：事業承継支援および創業支援の強化】 現在、市内の多くの事業所が「跡継ぎ不在」による廃業の危機に直面しています。新規の企業誘致も重要ですが、地域経済を支えてきた既存事業所の継続を助ける「事業承継支援」は、本市の産業活力維持に不可欠です。あわせて、市内で新たに挑戦する方々への「創業・起業支援」についても、本戦略の中でより重点的な施策として位置づけ、手厚いサポート体制を構築することをお願いします。</p>	<p>事業承継及び創業支援につきましては、本市としても重要な課題と捉えているところです。 この点を踏まえ、「施策【8】地域産業への支援と企業・人材の誘致」における「地場産業の経営力向上支援」を以下の内容に修正します。</p> <p>■事業経営に関する幅広い知識と経験を有する商工団体と連携し、安定した経営支援体制を維持・向上させながら、商工業者の経営改善に取り組めます。あわせて、新たな創業や事業承継を支援することで、持続的な商工業の活性化を図ります。また、自己資金だけでは対応が難しい設備更新や新商品開発などの投資を必要とする商工業者へ、市の融資関連制度で資金調達を支援し、事業展開を促進することで、地場産業の経営力向上を図ります。</p>	○

No.	該当箇所	意見の概要	本市の考え方	反映
16	10ページ 施策【5】人流・物流拠点の整備と活性化、19ページ 施策【14】生活・社会基盤の強化、31ページ 施策【24】防災・減災のための基盤整備、32ページ 施策【25】生活インフラの強化	<p>八代港は熊本県内唯一の「重要港湾」であり、熊本地震の震災時には陸路が寸断される中で、海からの救援物資を受け入れる**「命の岩」**となりました。この大きな教訓を今後に生かす必要があると考えます。</p> <p>1. 日奈久断層帯のリスクと道路の重要性 日奈久断層帯は、熊本地震の引き金となった布田川断層帯と隣接しており、依然として活動の懸念が指摘されています。</p> <p>・現状： 八代港から九州自動車道（八代IC）を結ぶ現行の県道（臨港線）は、住宅地や狭隘区間を含んでおり、大規模地震による家屋倒壊や液状化で通行不能になる大きなリスクがあります。</p> <p>・必要性： 港が機能しても「出口」が詰まっては意味がなく、耐震強化されたアクセス道路は、まさに救急救命・物資輸送の生命線です。</p> <p>2. 国道昇格と高規格道路への期待 県道（臨港線）を国道へ格上げする運動は、財源確保と整備スピードを上げるための戦略として有効と考えます。更に八代港と八代インターを繋ぐことも可能性としてあります。</p> <p>・物流の効率化： 八代港は国際コンテナターミナルの整備が進み、取扱量が増えています。高規格道路で高速道路と直結すれば、災害時だけでなく平時の経済効果も最大化されます。さらに半導体関連の物流を始め、今後の八代港の機能性、利便性の向上につながります。</p> <p>・行政の動き： 八代市としても「八代港周辺の道路網整備」を最重要課題の一つとして掲げておられますが、国や県への要望活動を更に大きくしていく必要があります。</p> <p>3. 八代と天草シーライン構想の可能性 八代と天草を結ぶこの構想は、まさに「陸の孤島」になりにかねない天草地域への救済ルートとしても期待されます。</p> <p>・リダンダンシーの確保： 南海トラフ地震などで大分や宮崎方面からの陸路が遮断された際、八代港を起点として天草、さらには島原方面へと海路・陸路を組み合わせた救援ルートが構築できます。</p> <p>・波及効果： 天草の観光振興や水産物の迅速な輸送にもつながり、南九州全体のネットワークを強靱にします。</p> <p>今後の展望 八代地域の防災力だけでなく、「港（海）」と「高速道路（陸）」を「耐震道路」で結ぶことは、九州全体の防災戦略において欠かせないピースと考えます。 八代が九州、熊本県の中心に位置するという地政学的観点から、また広域的な物流・経済活性化の観点から見ても、極めて重要な視点と考えます。 よってこの件も施策【5】または施策【14】の中に取り入れられないか、ご検討願います。</p>	<p>本市としましても、熊本県下最大の貿易港であり、大規模災害時における緊急物資輸送や広域支援の拠点である八代港へのアクセス道路の重要性は認識しております。</p> <p>また、臨港線の耐震性能について、道路管理者である県に確認したところ、臨港線（県道郡築横手線の一部区間、県道八代港線）は一次緊急輸送道路に指定されており、落橋に対する安全性や地震後に橋としての機能を速やかに回復すること等といった所定の耐震性能を確保することが必要という認識のもと、本道路にある井上跨線橋については耐震補強対策を実施しており、その他の橋梁についても、定期的に橋梁点検を実施しながら、補修・補強が必要となった場合には、随時対策を行ってまいります、とのことでした。</p> <p>そのような中、県南・天草地域が中心となって、国に早期実現を求めている八代・天草シーライン構想に關しまして、本市の八代ICと上天草市にある松島有料道路入口までを高規格道路で結ぶべきというご意見もいただいているところです。</p> <p>今回いただいたご意見を全て具現化するための一番の近道は、現在、国・県の「新広域道路交通計画」において構想路線に位置付けられている八代・天草シーラインを計画路線（高規格道路または一般広域道路）に格上げし、構想の早期実現を図っていただくことであると考えております。</p> <p>以上の点を踏まえまして、以下の内容を「施策【5】人流・物流拠点の整備と活性化」にも記載（※施策【25】に記載あり）いたします。</p> <p>&lt;新たな人流・物流ネットワークの創出&gt; ■ 災害時における緊急輸送道路や代替路として、さらには新たな人流・物流ネットワークの創出が期待される「八代・天草シーライン構想」の早期実現に向けて、国への要望活動や啓発活動等を実施します。</p>	○
17	16ページ<旧八代市厚生会館の検証>	<p>・熊本県立劇場のブロムナードに建物の説明板があり、館内に荒木精之氏の胸像があるように、旧八代市厚生会館が再開されたおりに、会館建設の経緯と坂田道男氏の「理念と哲学」を解説した説明板、ホワイエに坂田道男氏の胸像を設置して欲しい。</p> <p>・八代市立代陽幼稚園が閉園されるにあたり、跡地は旧八代市厚生会館が再開されたおりに駐車場として活用できるようにしておいてもらいたい。</p>	<p>現在、旧厚生会館の閉館に至った経緯等について再検証しており、今後の方向性については、市民や専門家の皆様から広くご意見を伺いながら、慎重に検討を進めてまいります。</p>	
18	16ページ<良好な景観形成>	<p>・八代城(本丸・二の丸・三の丸・出丸)であった場所を歴史的風致地区とし、建築物の高さ規制をしてもらいたい。具体的にはマンション等の高層建築物が建設出来ないようにして欲しい。</p> <p>・本丸跡だけを見て八代城跡と勘違いする人が多いので、八代城下町は東西約1.5km、南北約1.0kmの惣構えの城郭であったことを視覚で解かるようなまちづくりをして欲しい。【一部現存している堀(濠)跡の整備、道路になっている堀(濠)跡を水色で舗装するなど】</p>	<p>八代城跡は国史跡かつ日本遺産構成文化財であるため、本市の重要な文化財として、整備基本計画を策定し、保存整備を進めています。本丸以外のエリアも含め一体的な景観形成が必要であるため、本市の景観計画において、この一帯を「八代城跡・市役所周辺地区」として景観重点地区候補に位置付けております。</p> <p>八代城跡などの文化財を中心としたまちづくり（景観重点地区指定や歴史的風致維持向上計画策定）において、地域住民の理解や協力を得ながら、対話を通じて規制や整備の必要性を検討してまいります。</p>	

No.	該当箇所	意見の概要	本市の考え方	反映
19	22ページ 施策【16】 学校教育の充実	<p>ー 中学校・高等学校の立場から ー</p> <p>本施策案に示されている「学びを支える環境づくり」「ICTを活用した教育の充実」「教職員の業務効率化と人材育成」は、これからの時代を生きる中学生・高校生にとって非常に重要な視点であり、全体として方向性には賛同します。その上で、学校現場、とりわけ中学校・高校段階の実態を踏まえ、以下の点について意見を述べます。</p> <p>まず、「学びを支える環境づくり」についてです。</p> <p>i-check等の質問紙調査を活用し、児童生徒の状態を把握しながら学習環境を整えていく取組は有効である一方、調査結果が教職員の新たな事務負担となり、十分に教育活動へ還元されないケースも懸念されます。中学校・高校段階では学習内容の高度化や進路選択への不安も大きくなるため、調査結果を「現場で活用しやすい形」に整理し、学級経営や個別支援に直結する仕組みづくりが重要です。</p> <p>また、インクルーシブ教育の推進については、理念に賛同するとともに、通常学級に在籍する支援を要する生徒が年々増加している現状を踏まえ、人的配置の充実が不可欠であると考えます。専門性のある教職員や支援員の継続的な配置、外部専門機関との連携強化がなければ、個別的教育支援計画の実効性は高まりません。特に中学校・高校では教科担任制のため、校内での情報共有体制の強化も重要です。あわせて、日本と海外におけるインクルージョンに関する視点の違いにも着目する必要があると思います。</p> <p>次に、「ICTを活用した教育の充実」についてです。</p> <p>1人1台端末の活用や学習ログの分析による個別最適な学びの推進は、中学校・高校段階において、生徒の主体性や自己調整力を育成する上で大きな可能性を持っています。ただし、ICT活用が「手段」ではなく「目的化」しないよう、教職員の授業設計力を高める研修の充実が不可欠です。また、ICT支援員の派遣については、単発的な支援にとどまらず、学校ごとの課題に応じた継続的な伴走支援を期待します。</p> <p>外国語教育については、ICTを活用した個別学習や発信活動の充実は有効ですが、中学校・高校では「英語が苦手な生徒」と「高い意欲をもつ生徒」の二極化が進んでいます。それぞれの層に応じた学習支援が可能となるよう、教材や指導方法の選択肢を広げる施策が求められます。</p> <p>最後に、「教職員の業務効率化と人材育成」についてです。</p> <p>教育の質を高めるためには、教職員が子どもと向き合う時間を確保することが最も重要です。業務のデジタル化や会議、研修の精選は強力に推進すべきであり、特に中学校部活動の地域展開については、教育的意義を損なわない形で、教職員の負担軽減につながる具体的な制度設計を求めます。</p> <p>また、管理職のマネジメント力向上については、教職員一人ひとりの専門性や強みを生かした組織運営ができる体制づくりが重要です。人材育成と働き方改革が両立することで、結果として生徒が安心して学べる学校づくりにつながると考えます。</p> <p>以上の点を踏まえ、本施策が理念にとどまらず、学校現場の実情に即した実効性のある取組として推進されることを期待します。</p>	<p>①「学びを支える環境づくり」について</p> <p>i-check等の質問紙調査につきましては、現在、児童生徒一人一人がタブレット端末上で回答するとともに、その調査結果については、各学級・学校全体でどのような課題・傾向があるのかを整理した形で提供しております。また、児童生徒においても、タブレット端末上で調査結果を確認することができ、自分の学習の習得状況に応じた練習問題を解くことができるようになっております。今後も、教職員の事務負担を減らすとともに、子供たちの学びを支える仕組みづくりを行ってまいります。</p> <p>②「インクルーシブ教育の推進」について</p> <p>ご意見にありますように、人的配置の充実は不可欠だと考えます。県教育委員会へ要望するとともに、市独自の支援員の拡充を引続き行ってまいります。</p> <p>③ICTを活用した教育の充実</p> <p>ICT活用を手段と捉え、授業設計力を高めることは、本市の目指す「自立した学習者の育成」においても不可欠であると考えております。そのため、ICT活用が目的化することがないよう、研修の充実を図ってまいります。また、ICT支援員の派遣については、単なる操作支援にとどまらず、各校の課題に継続して寄り添う「伴走型支援」へ転換してまいります。</p> <p>④外国語教育について</p> <p>英語の知識や技能等を身に付けさせるだけでなく、英語等の外国語を好きになり、興味をもたせることが必要だと考えます。英検受験料の補助や外国語指導員によるイベント等の実施を通じて、英語に対する意欲や興味・関心を高める取組もあわせて行ってまいります。</p> <p>⑤「教職員の業務効率化と人材育成」について</p> <p>中学校部活動の地域展開につきましては、現在、考えられる様々な課題を検討しながら、ブロック毎の拠点校部活動や合同部活動への導入など取組を進めているところであり、それに伴う業務効率化につきましても、部活動の教育的意義を損なわない形で進めてまいりたいと考えております。</p> <p>また、ご意見にあります「管理職のマネジメント力向上」につきましては、管理職や教職員の会議・研修等を充実させることで教職員の専門性の向上や人材育成につなげ、引続き児童生徒が安心して学べる学校づくりを進めてまいります。</p>	
20	7・9・12・14・16 ページ	<p>【厚生会館跡地を核とした中心市街地の活性化について】</p> <p>対象施策： 中心市街地の活性化、地産地消の推進、観光振興（外貨獲得）</p> <p>具体的内容： 厚生会館跡地を、八代産の農産物・水産物の「直売所」および「地産地消レストラン」を核とした、中心市街地のハブステーションとして整備することを提案します。</p> <p>一次産業者の所得向上： 地産地消の拠点として八代ブランドを直接販売・提供し、生産者への利益還元を最大化する。</p> <p>回遊動線の創生： お祭りでんでん館や八代城跡、商店街をつなぐ結節点とし、歩いて楽しい街なか空間を創出する。</p> <p>インバウンド需要の取り込みと税収増： 高品質な食と土産物を提供することで、外国人観光客による外貨獲得を促進し、地域経済の活性化と市税収入の増加を図る。</p> <p>観光のハブ化： ここを起点に市内各地の観光スポットへ送り出す「観光の玄関口」としての機能を担わせる。</p>	<p>現在、旧厚生会館の閉館に至った経緯等について再検証しており、今後の方向性については、市民や専門家の皆様から広くご意見を伺いながら、慎重に検討を進めてまいります。</p>	

No.	該当箇所	意見の概要	本市の考え方	反映
21	10・17ページ	<p>【新八代駅周辺のスポーツ施設整備について】  対象施策：新八代駅周辺の拠点づくり、次世代育成、交流人口の拡大  具体的内容：新八代駅周辺の開発において、八代の未来を担う子供たちが、環境に左右されず志高く競技に取り組める「総合スポーツ拠点」の整備を強く提案します。  劣悪な競技環境の抜本的改善：現在、市内のスポーツ施設（バドミントン、グラウンドホッケー、テニス、野球、水泳、武道館等）は、著しい老朽化、公共交通機関でのアクセスの悪さ、あるいは競技施設そのものが存在しないといった、子供たちにとって極めて不便で過酷な状況にあります。  交通の要衝への施設集約化：新幹線駅という最大の利点を活かし、市内外から誰もが円滑にアクセスできる場所にこれらを集約・再整備すべきです。これにより、日々の練習環境の向上だけでなく、指導者や保護者の負担軽減も図れます。  大型大会の誘致による経済波及効果：交通利便性を武器に、県レベル・国レベルの大型大会を積極的に誘致することを提案します。交流人口の劇的な増加を、宿泊や飲食を伴う中心市街地への大きな経済的恩恵へとつなげ、市全体の活性化を図るべきです。</p>	<p>新八代駅周辺のまちづくりにつきましては、令和6年3月に策定したグランドデザインに基づき検討を進めてまいりました。その中で核としていた5千人規模以上のアリーナを中心とする大規模集客施設については、多額の財政負担や県立総合体育館の現地再整備による集客への影響を考慮し、構想を見直すことといたしました。  今後は、民間投資の誘致を念頭に、市民アンケート結果等を活用しながら、具体的なエリアコンセプトや方向性を検討してまいります。  一方、市内24の体育施設は、現在地域ごとに分散して配置されており、住民の皆様への「生涯スポーツ」の場として機能しています。これらの老朽化箇所については、安全に利用できるよう定期的なメンテナンスを実施し、維持管理に努めているところです。  新八代駅周辺への集約・整備は活性化に資する重要な視点ですが、市の財政に与える影響は大きく、すべての集約化は費用対効果を含めて総合的な判断が必要です。そのため、今後は県有施設の誘致など外部リソースの活用も視野に入れ、限られた財源の中で最適な施設配置を検討してまいります。</p>	
22	11ページ	<p>「現状と問題点」  五家荘の観光の現状― 昔の五家荘の観光は、紅葉や新緑の時期に多くの団体客が訪れる集中的な観光が主流でしたが、近年は個人旅行や家族旅行など小グループでの観光が増えています。  観光の在り方にしても、数多くの客を呼び込んで観光地を巡るといった「量」の観光から、少人数でもそこでしか味わえない体験ができるなど、付加価値がついた「質」の観光が求められていると思います。  また、紅葉や新緑の季節に集中していた客が、登山ブームもあり一年を通じて訪れるようになりつつあります。  民宿、旅館などの宿泊施設に関しては、決して設備が整っているとは言えないものの、他のどこにもないようなおもてなしや料理の提供など、各宿の工夫や努力により、宿泊されたお客からは高評価を頂いています。  観光施設に関しては、良い施設が多数あると思うのですが、老朽化が激しく、見た目の印象も良くないなど、その魅力を活かしきれず、せっかくの施設がもったいないように思います。  又、各地区に残る伝説や神社など、もっと観光に活かせそうな「宝」を、掘り起こして活用していくことも大事だと思います。  「その対策」  稼げる観光地、稼ぐための施設、稼ぐためのおもてなしを考え、八代市に欠かせない観光地としての認識を行政、民間共に高めさせていくことが必要だと思っています。  また、施設の整備と魅力を活かすための活用方法の検討・実施、併せてリピーターを増やすためのおもてなしと工夫をもう一度洗い直し、それを実行していくと良いと思います。  特に施設の整備改修は急務だと思います。  地域の伝説や資源を最大限に活かしていくことも大事だと思います。例として、樫木と仁田尾にある樫木天満宮と仁田尾天満宮は、太宰府天満宮ゆかりの神社で門外不出の飛梅を分けて頂いている珍しい神社でもあり、今でも太宰府天満宮との交流が続いています。そこで老朽化している神社の整備を行い、観光施設としてもPRしていきながら菅原伝説の現実化を図っていくなど、色々な活かし方があると思います。</p>	<p>ご意見のとおり、現在の国内観光においては、従来までの団体旅行から、個人旅行が主流となっており、五家荘を訪れる観光客についても、自宅から1～2時間圏内の地域を訪れる近距離の観光旅行（マイクロツーリズム）が増加しています。  また、観光に求める内容も、モノ消費からコト消費へ変化してきているため、旅先でしか味わうことができない「特別な体験」を観光コンテンツとして磨き上げ、外部に発信していく必要があると考えています。  この特別な体験を、観光コンテンツとして磨き上げ、観光客に販売していくためには、行政の力だけでは成り立っていかないため、市内に存在する観光資源を守り育てておられる地域（民間）の意識も高めていく必要があると認識しています。  さらに、老朽化した施設（特に、多くの観光客等が利用されるトイレなど）については、地域が観光で稼ぐためのおもてなしに繋がるものであるという考え方の下、令和8年度から順次整備していくこととしています。  本市としましては、今回いただいたご意見も参考にしながら、五家荘など本市特有の歴史や文化などを観光資源として結びつけ、一体的なストーリーを構築し、観光コンテンツとして商品化するなど、多様な観光ニーズに対応した観光資源の磨き上げに取り組んでまいります。</p>	
23		<p>松中記念館を図書館とか児童館にしてはどうか？</p>	<p>松中信彦スポーツミュージアムは、平成20年に当時福岡ソフトバンクホークスに所属されていた松中信彦選手が現在の位置に整備され、その後本市に寄贈された施設です。  この施設は、スポーツ振興を通じた青少年の健全育成及び地域の賑わいの創出を図るために整備された趣旨を踏まえ、施設の有効活用を図っていく必要があると認識しています。  ご意見いただいた図書館や児童館として活用するに当たっては、寄贈者のご意見や費用対効果など、総合的に検証する必要があると考えています。</p>	
24		<p>がめさん公園の定期イベント</p>	<p>本市においては、熊本県や県南市町村と連携して、県南15市町村のグルメや伝統芸能、ワークショップなどを楽しむことができる「くまもと★みなみ うまかもんフェスタ」を、新八代駅がめさん公園を会場に令和6年度から開催しています。  JR新八代駅に近い好立地な環境ではありますが、都市公園として多くの市民の憩いの場でもあるため、公園利用者との調整を図りながら、当該公園の活用を検討してまいりたいと考えています。  なお、本市公園は、様々なイベントやスポーツ大会などの開催に利用されており、令和6年度には本市公園で300件を超え、そのうち新八代駅がめさん公園で出店を伴うようなイベントは4回開催されています。今後も多くの皆様にイベント等の開催に利用していただければと考えております。</p>	

No.	該当箇所	意見の概要	本市の考え方	反映
25		八代主要所めぐりタクシーの設置 日奈久、くまモンポート、坂本くれよん温泉、龍峯山、泉とか	本市は、西は八代海に面し、東側は九州山地に接する自然豊かなエリアが広がり、県内第2位の面積を誇る地域です。 その広大な地域には、開湯600年以上の歴史を誇る日奈久温泉、クルーズ船が寄港する海の玄関口くまモンポート八代、大自然を満喫できる露天風呂を備えた坂本温泉センタークレオン、九州山地に接する平家落人伝説の残る五家荘など、数多くの観光名所が存在しています。 このような主要観光地をタクシーで巡るとなれば、多くの時間と費用が必要となり、観光客にとっても大きな負担が生じることになると認識しています。 観光客が求めるものは多種多様であることから、本市としましては、観光客のニーズを的確に捉えた移動手段について市内交通事業者等と協議を深める必要があると考えています。	
26		新八代周りの企業誘致	本市では、八代港・九州新幹線・高速道路といったインフラの強みを活かせる企業の誘致を強化することとしており、九州新幹線の停車駅である新八代駅周辺の企業誘致につきましては、“広域からの人流や賑わいを生み出す拠点”となるよう、現在周辺の再開発の見直しを進められており、新たな再開発の方向性に合わせた企業誘致を模索してまいります。	
27		まとめてほしい。新八代駅にいけばなんとかなるみたいな。	本市では、昨年、新八代駅周辺のまちづくりを進めるために、民間事業者との対話を通じ、様々なアイデア等を把握するために、サウンディング型市場調査を実施しました。 この調査結果を踏まえて、引き続き、民間事業者と意見交換を行いながら、民間の創意工夫や経営能力を活用した新八代駅周辺のにぎわい創出に取り組んでいきます。	
28	3ページ<市民の声が届くための職員の意識改革と制度整備>	市民と市職員で意見交換など交えたワークショップなどができると良いなと思う。	ご提案内容の類似事業として「まちづくり出前講座(※)」があります。ワークショップとは形式が少し異なりますが、本講座において市民の皆さまと市職員の意見交換等を行っていきたいと考えています。 ※市民団体等が主催する集会等に、97の講座メニューの中から、市職員を講師として派遣し、市民の市政に関する理解を深めるとともに、まちづくりに対する意識啓発を図り、市民参加のまちづくりの推進を図る事業	
29	5ページ<DXやAIの活用による生産性向上>	DXやAI活用を謳うなら、八代市のウェブサイトをもっと分かりやすく使い勝手良くしてほしい。たどり着きたい情報へたどり着けないことが多く、検索をかけても不要な古い情報が多く引っかかり、精査に時間がかかる。	令和6年10月に、市公式ホームページをフルリニューアルし、検索機能の強化やスマートフォンへの対応を実施しました。また、リニューアル時には、15,000記事以上あったページを3,000記事程度まで整理しましたが、令和8年2月時点で4,500記事まで増えている現状です。検索機能の向上を図るため、今後も定期的に不要となった記事の整理を行います。	
30	8ページ<従来の発想を超える鳥獣害対策の実施>	日本全国で獣害が増えている、少し山手に行くとか鹿・イノシシはいるし、また今の時期、海辺にはカモも多く、農業にとっては大打撃。ことに猟銃の弾については個人負担でかなりの出費になると聞くと、この辺が是正できないと危険を冒してまで狩猟してくれる人がつづかか気になるところ。八代工業高校の生徒がハンター班がハコ罠の作成、ジビエ開発をやっているとニュースで見たことがあるので、このような取り組みもぜひ。 福岡のうきは市では、ジビエの食材、ドッグ用フードを作っている会社もあり、設備さえ整えられれば需要はあると思う。https://ukinana.theshop.jp/	・本市においても、鳥獣による農林水産物への被害は深刻なものとなっており、特にシカによる森林被害と沿岸地域におけるカモ等による農産物被害が多くなっています。 ・カモ等の鳥類の捕獲につきましては、鉛弾が禁止されている区域では高額なスチール弾を使用することになるため、銃弾に対して補助を行っています。今後も捕獲に従事していただく鳥獣被害対策実施隊員の捕獲に要する経費の負担軽減など、活動しやすい環境づくりに取り組んでいきます。 ・八代工業高校の生徒が製作した箱ワナにつきましては、森林整備の推進と地域林業の振興を図ることを目的に設立された「やつしろの山づくり推進協議会」に寄贈していただきました。また、同協議会では八代工業高校生徒のジビエ料理商品開発に支援を行っています。 ・本市におきましても捕獲した個体をペットフードに加工して販売されている企業があり、需要も高いことから、処理個体の増加を検討されているようですが、捕獲現場から解体施設までの搬入時間がかかり過ぎることが課題になっており、ジビエカーの導入を検討されていると聞いています。	
31	9ページ<八代産い草の新たな活用と販路開拓>	八代産いぐさを活かしたグッズ。新たなインテリアとしての開発も必要だと思う。 花ござを織る織機が八代にはもう無いと同級生が言っていたのを思い出したので、このような技術の復活し、継承・新たなデザイン性のあるものを作ることに力を入れていただければと思う。 また、食品としてのいぐさについても何らかのエビデンスが得られれば海外市場に販路拡大できるのではないかなと思う。	い草や畳表を、現在の畳の使い方に加え、畳以外の新しい活用方法の提案は本市としても重要であるとされており、洋風住宅にマッチした新たなデザインや製品などを提案してもらうため、国や民間企業等と連携し、若手デザイナー等へのプロモーションを実施しています。 花ござを織る織機は八代市に数台残っております。花ござ用にいぐさを染める業者が福岡県にしかないため、課題もありますが、花ござも新たな活用方法の一つとして検討いたします。 食用のい草は、無農薬で栽培され、畳表用のい草と生産方法が異なっており大量生産が難しい状況です。一方で、い草は食物繊維を豊富に含み機能性成分を有することから、健康機能を訴求することで国内外への販路開拓ができる可能性があります。そのため、八代ならではの食材として、製造・販売する事業者支援や国内外へのマッチングを通じて、販路開拓・拡大を支援していきます。	

No.	該当箇所	意見の概要	本市の考え方	反映
32	9ページ<食品加工施設を核とした雇用の創出とブランディングの確立>	フードワークスやつしろがどのような形態なのか不明なのだが、八代の特産である晩白柚などで保存が効くピールなどの製菓材料、リキュールなど加工などができれば良いと思う。(現在、マキシトを作っているところもあるか) その材料を利用して市内の飲食店、菓子店やベーカリーでオリジナル商品を作ってもらい、イベントの時だけではなく、通年販売して欲しい。(以前、熊本菓子組合で作っていた「あまなつ賛菓」などのお菓子の開発でも良いと思う。)	フードワークスやつしろでは、ふるさと納税の返礼品としても人気が高い、ウナギの加工品を製造する予定です。また、加工するウナギは本市で養殖されたものや八代海で獲れたものを仕入れる予定で、製造した加工品は市内の物産館や飲食店でも販売できるよう検討を進めております。まずは、今回の食品加工施設が安定的な運営となるよう取り組んでいきたいと考えております。また、新たな特産品の開発等を行っていく上では、財源の確保や事業の種類、必要な施設などを踏まえ、検討を進めていく予定です。	
33	10ページ<新八代駅前開発の推進>	新八代駅前開発については、民間事業者からの評価も厳しいと思うが、こちらに人流が流れれば、中心部の賑わいが分散され、どこに行っても賑わいが感じられない状態に陥ると思われる。工業団地については誘致できれば御の字だが、物流拠点である方が現実味がある。化学系の会社が来られると立地から地下水や土壌の汚染が心配される。	令和6年3月に策定した新八代駅周辺ランドデザインにおける今後の方向性のポイントとしまして、「中心市街地や周辺自治体への人流の創出・効果の波及」を掲げており、新八代駅周辺の開発を進めるにあたっては、その効果の最大化が図られるよう中心市街地等との接続をより強化していくこととしております。 また、現在整備中の龍峯地区における県営工業団地は、「新八代駅前開発の推進」には含まれておりませんが、新しい県営工業団地への企業誘致は、本市としましても最優先事項と捉えております。誘致に関しましては、県と連携し、八代地域の特性が生かせる企業誘致に取り組んでまいります。 なお、ご心配されているような環境負荷が大きい企業の立地があった場合には、市として環境保全協定の締結を求めるなど、汚染の未然防止及び市民の不安払しょくに努めてまいります。	
34	11ページ<日奈久温泉の再生、五家荘地域の観光振興>	・日奈久は駐車場問題。(国道をまたがない駐車場の確保) ・五家荘は交通問題。離合場所を増やすなど。回りで話を聞くとやはり自分で運転していくのは怖いという声が大半である。	・日奈久には、日奈久ゆめ倉庫や日奈久ドリームランド・シー・湯などに比較的広い駐車場はありますが、ご意見のとおり温泉街へのアクセスには、国道3号線を跨ぐ必要があります。歩行者の安全面の確保などが課題であると認識しております。 駐車場や歩道橋の新たな整備には、多額の予算をはじめ、整備する場所の選定など地域の理解も必要になりますので、この点は地元日奈久地域の皆さんと意見交換を行いながら、より良い方策を見出していく必要があると考えています。 ・一般国道445号線の葉木(梅の木吊り橋)付近から樅木(下屋敷)付近までの区間は狭小区間でもあり、本市としても道路管理者である熊本県に改良要望を行っております。現在、離合箇所を複数箇所設置するための設計を行われており、早期着手に向けた協力や要望を本市としても行ってまいります。市道につきまちは、舗装部分の老朽化や法面からの土砂流入や落石がありますことから、計画的な舗装事業の実施や、適切な維持管理に取り組んでまいります。	
35	12ページ<中心市街アーケードのあり方検討>	アーケードは駐車場問題の解決(日中は無料、夜間は有料など)、数時間滞在型の施設や店舗がいくつかあると人の流れは確保できるかと思う。 生涯学習のクラスとして使える、一般サークル向けに貸し出し(音楽スタジオなど)がある、など市民が楽しく利用できるものがあればよいと思う。その際、アーケードの近くにバス停ができるなど利便性も必要。 空き家の再生など地元で声がけをして企業・学生・有志などで改装などのアイデア会→空き家を活かす改修などあるならぜひ参加したい。	駐車場の利便性向上や滞在型施設の導入、市民活動の場の創出、公共交通との接続性確保等の視点は、中心市街地のにぎわい創出および回遊性向上を図るうえで重要な要素であると認識しております。 アーケード近くのバス停としましては、現在、市街地循環バス(まちバス、みなバス、ゆめバス)の運行ルートに「本町緑地公園」があります。バス以外にも乗合タクシーがアーケード付近で運行されており、乗り場としては、日奈久温泉ライン(金剛経由)の「本町三丁目」、平和町線の「桜十字リハ病院」があります。これらの路線はすべて、1日複数回運行されており、乗車予約等も不要です。その他の路線バスや乗合タクシーにつきましても、JR八代駅やゆめタウン、イオン八代などで循環バスに乗り継ぐことで、アーケードへのアクセスに利用できると考えております。 また、空き家の再生や多様な主体の参画による改修の取組につきましても、民間活力の活用という観点から有効な視点であると考えております。 いただいたご意見は、今後の具体的施策の検討に当たり参考とさせていただきます。	
36	13ページ<企業・人材の誘致>	市内全域を対象に地域課題の解決に繋がるIT・コンテンツ企業等の誘致。だいぶ前に徳島で光回線を張り巡らせて、結果、IT企業のサテライトオフィスの数が凄くなったとの話があったが、そのようなビジネスに即つながら情報通信インフラなど強いものがないと企業誘致は難しいのではとも思う。平坦な土地がある八代はデータセンターなどとも思ったが、日奈久断層の地震リスクがあるため難しそう。	徳島県の事例は先進モデルとして認識しており、本市においても、現在、市内全域で高速光回線の利用は可能であり、より付加価値の高いIT企業誘致に向け、サテライトオフィスの整備などの環境向上を図っています。また、データセンターにつきましても、今後需要が見込まれる中、国も地方分散を掲げております。ご指摘のとおり、地震リスクがあるものの、本市はインフラの強みもあるため、“地の利”を活かす取組の中で、検討していきたいと考えております。	
37	14ページ<地域を育む学びと文化の拠点づくり>	八代の歴史・文化への理解を深め、郷土への愛情を育む→まずはこの第一歩として郷土学習をしてほしい。私たちが小学生の頃は鹿子木量平について学ぶ機会、おざや節、貝洲加藤神社の神楽など地域に伝わる伝承を教えてもらっていたが、最近の子たちに聞いてみると習っていないというので、これはいかんと思う次第。今自分たちがどのような土地で育っているのか、歴史を紐解き、実際に作られた歴史的建造物を見たり触ったり、また地元の年配者に話を聞くなどして考える機会を設けるのはとても大事だと思う。→その時は、あまり頭に残らなくても数十年後に沁みてるもの。 変な話だが、こういうことが無いとアイデンティティも育たないし、帰巢本能・・・というか、地元への愛着も薄くなると思う。	本市では、市内の教育機関や民俗芸能保存団体と連携し、専門職である学芸員が各学校に出向いて、地域に伝承される民俗芸能について紹介する講座や公演会を行うことにより、郷土学習の機会を提供しております。また、市民からのご依頼に基づき、民俗芸能の紹介等の出前講座も実施しております。 今後も、各学校や民俗芸能保存団体の意見や要望などを踏まえ、継続的に郷土学習の機会を提供し、郷土への愛情が育まれるよう取り組んでまいります。	

No.	該当箇所	意見の概要	本市の考え方	反映
38	14ページ<市民アートの表現の場の創出>	<p>昨年の市政20周年記念で長く展示などがあつたのは良かったと思う。何回かに分けて色々な展示を楽しめた。公共空間を市民アートの展示・発表の場に活用することも賛成。ただ、いずれかの団体に所属していないと駄目であるとかいう基準をなくしてほしい。会に属することが出来なくても細々と自分のペースで制作をしている人はたくさんいるし、募集して決めるという形で発表の機会が与えられればと思う。</p> <p>また、鏡文化センターなどで行われる自主文化事業についても毎度同じようなものが来るのではなく、広くアンケートを取り検討していただけたらと思う。八代市ではなかなかオーケストラの演奏などが無いので、熊本に行かずとも何年に1回は交響楽団のクラシックが聴けるなど、して欲しい。</p> <p>また、魅力的なコンサートについては、なにも外から呼ぶだけにとどまらず、オーディション形式で地元で音楽をやっている人たちを集めて行うのも良いと思う。</p>	<p>公共空間における市民アートの展示・発表の場につきましては、市民の皆様からのご要望や利用ニーズを踏まえ、今後、建築・消防等の関係法令や安全面への配慮、壁面の構造、光環境条件、来庁者動線等を考慮し、可能な箇所においてアート展示・発表ができるよう、整備を進めてまいります。あわせて、市民の皆様幅広く活用していただけるよう、公平性を確保した利用基準の整備も進めてまいります。</p> <p>自主文化事業につきましては、これまででも来場者の皆様から毎回意見をいただいておりますが、広くご意見を伺う手段としては、現在、鏡文化センターホームページの「お問い合わせ欄」のみとなっております。今後は、より多くのご意見をいただけるよう、自主文化事業専用の「ご要望欄」を新たに設ける予定です。</p> <p>また、オーケストラの鑑賞機会につきましては、鏡文化センターにおいて熊本交響楽団の演奏会や、八代にゆかりのある音楽家が出演する「ふるさと音楽祭」などを毎年開催しており、クラシック音楽を含む多様な公演の機会づくりに努めています。いただいたご提案も参考に、地元で音楽活動をされている方々の発表の場の充実を含め、今後も自主文化事業の充実に取り組んでまいります。</p>	
39	16ページ<旧八代市厚生会館の検証>	<p>閉館になるまで、クラシック、ロック、歌舞伎や能、高校の頃には映画の上映会、などお世話になった。赤いゆうたんが気持ちをピシッとさせてくれた、八代市の社交の場だった。良く行ってはいたものの、厚生会館の成り立ちを閉館後に勉強して知ったので、「市民格」という言葉を生んだ場所だと知った時には、だから重厚というか、格を感じていたのかとすんなり理解できた。旧厚生会館の閉館に関しては、当時、突然のことで「え？なんで？」ということの方が大きかった。市報などで「ただ老朽化で危ない」とふれた責任は重い。このことで多くの市民は「なら仕方ない」と考えることをやめたからだ。（しかし、免振工事まで終わっておきながらその方向に持って行くのはかなり無理な話。別の思惑があったと思わざるを得ない）</p> <p>しかし、今はただの老朽化で壊すという図式は成りたなくなってきた。なぜなら、昨今の原料高、人件費の高騰で活かすも壊すもたいそうな額がかかるからである。その上、SDGs未来都市等選定で持続可能なことを考えなければならなくなったから。これまで、建築物を壊しては建てるを繰り返してきたが、ここで注目を浴びる一手を打つべきと思う。（建造物の修復や補強に長けた技術の開発を地元ですれば…と考えたりもする。）</p> <p>熊本県立劇場も1年4か月ほどをかけて改修工事が行われる模様。手を入れながら大事に使っていく姿を次世代に見せるのも大切なことであるし、建築文化・芸術文化の醸成にもつながると思う。</p> <p>一つお願いしたいことは、2020年にdocomomoJapanに選定されているが、まだ選定記念プレートの贈呈をされていない。そのことを知る市民は少なく、そういったことから厚生会館の建物としての価値を見直していくきっかけを作り、それからきちんとした検証に入った方が良いのではないかと考える。</p> <p>また、文化庁ではこれまで保護されず、取り壊しが多くなっている近現代建築物について調査を行っている。こちらが現在、1年に2県で調査をすすめているとのこと、この調査もしてほしいし、八代にも古いだけではないモダンイズム建築があることを誇りに思い、大切に文化の拠点として扱うべきだと思う。  <a href="https://www.bunka.go.jp/kindai/kenzoubutsu/research/index.html">https://www.bunka.go.jp/kindai/kenzoubutsu/research/index.html</a>      近現代建築物緊急重点調査とは      我が国の近現代の建築物や土木構造物（近現代建築物）は、その優れた意匠や高い技術などにより国際的に高い評価を受けているが、総合的な価値付けがされておらず、文化財としての保存措置がほとんど講じられていない。これらの適切な保護を図るため、第二次世界大戦終結後から20世紀末までにつくられた建築物と土木構造物のうち、優れた物件を抽出し、緊急かつ重点的に調査を実施する。</p>	<p>旧厚生会館は、令和3年（2021年）にDOCOMOMO Japanより「日本におけるモダン・ムーブメント建築250選」の一つに選定されました。</p> <p>選定プレートにつきましては、選定当時、本市では旧厚生会館ホールの再開を行わない方針であったことを踏まえ、選定プレート授与式の開催を見送ったため、選定プレートの授与は受けておりませんが、市民の皆様や専門家のご意見を幅広く伺いながら、旧厚生会館の再検証とあわせて慎重に検討してまいります。</p> <p>また、文化庁が実施する近現代建築物緊急重点調査は、国において調査対象地域を計画的に選定し段階的に進められていることから、本市といたしましても、いただいたご意見を踏まえ、国の動向を注視してまいります。</p>	
40	16ページ<良好な景観形成>	<p>良好な景観形成、歴史的まちづくり、また景観の保全、維持は必要。</p> <p>また、景観重点地区にかかわらず、全体的に言えることだが、住民による美化活動の促進をお願いしたい。・・・というのが、地区による年数回の清掃活動場所が固定されていて機能していない。できれば、清掃活動を積極的にする住民などへのボランティア用ゴミ袋の配布などを行って欲しい。</p>	<p>八代らしさを活かした良好な景観づくりを推進するため、歴史文化遺産の保全や美しいまちなみの創出など大きな取組だけでなく、市民一人ひとりが地域の清掃や除草、花植えなど日常的な活動に取り組むことも大切であると考えます。</p> <p>また、本市の景観につきましては、地域の皆様の清掃活動によって保たれている部分が多くあります。本市では、地域の清掃活動に必要なボランティア袋につきましては、ご要望頂いた数量をお渡ししております。なお、市から個人へ直接の配布は行っておりませんので、市政協力員にご相談ください。</p>	
41	17ページ<多様な学習機会の提供>	<p>こちらはぜひいぶん変化してきて、色々な講座が増えたのはうれしい。実務に応用できるスキルの習得を目指す講座をこれからも増やしてほしい。</p>	<p>市民ニーズに対応した、スキルアップや新たな学びのきっかけになるような講座を今後も開催していきます。</p>	

No.	該当箇所	意見の概要	本市の考え方	反映
42	17ページ<スポーツを活かした交流人口の拡大>	<p>スポーツ活動の推進と謳ってあったので、市民に関することかと思ったらスポーツ大会・合宿の誘致推進だったので、これは今まで通り過ぎると思う。</p> <p>これではなく、広く市民の健康を促進するものであって欲しい。例えば、働く世代がリーズナブルに使える健康施設として。（特に女性の健康はこれからの市の発展には必要と考える）</p> <p>昨今、夏は以上に暑い日が続いているため、室内で運動する機会が増える。ストレス発散、運動への入り口としてズンバやリリージャムなどのダンスエクササイズ、太極拳や健康体操ができる鏡付きのスタジオがあれば利用するサークルなどが増えると思う。（八代市には防音のあるスタジオが無いので、そのようなイベントも市外で行われることも多い。）現在ある施設の改修でそのような部分が増えれば新しい利用者も見込めると思う。八代市立体育館にはジムスペースがあるが、ほぼ男性のみの利用。女性専用というものがあれば望ましいが、スペース分けなどして利用促進につなげて欲しい。</p> <p>小体育室・会議室のスタジオ化（自治体・スポーツ施設）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の小アリーナや多目的室に鏡、パレエパー、音響設備を設置し、ダンス・ヨガスタジオに改装。</li> <li>・床材を硬いフローリングから、衝撃吸収性の高い長尺弾性塩ビシートや木質スポーツフロアへ張り替えるケースが多い。</li> <li>・倉庫・事務室のフィットネススタジオへの転換</li> <li>・使わなくなった倉庫や使われていないスペースをリノベーションし、小規模スタジオ（Functional Training Area）を併設。</li> <li>・アリーナの一部をパーティションで区切る</li> <li>・大アリーナの一部に可動式パーティション（音響対応）を設置し、時間帯限定でダンス・フィットネススタジオとして利用可能にする。</li> <li>・旧校舎の体育館を複合施設化（コンバージョン）</li> <li>・廃校になった旧中学校の体育館を改装し、ダンス、ヨガ、ボクシングなどができるスタジオを備えたコミュニティ拠点への転換。</li> </ul>	<p>これまでの大会誘致や合宿推進に加え、市民が日常的に、かつリーズナブルに利用できる「健康増進の場」を充実させることは、市のさらなる発展に繋がる大切な視点であると考えております。</p> <p>近年の猛暑の影響により室内運動の需要は高まっており、ダンスや太極拳を楽しむ働く世代や女性層が使いやすい環境を整えることは、新たな利用者層を広げる好機となります。既存体育館のゾーニングや小規模な改修（鏡の設置、床材の更新等）といった工夫により、幅広い層がより安心して利用できる施設へと拡充させることは、公共施設としての利便性を高める一助となります。</p> <p>また、廃校（校舎・体育館）の利活用につきましては、市民の皆様から様々なご提案をいただいております。市といたしましては、これまでまちづくりの拠点としていた学校施設でありますし、地域の賑わいを取り戻すという意味でも、何かしら新たな使い道はないか、地元の皆様のご意見を伺い、民間事業者の力もお借りしながら検討しているところです。具体的な手法としまして、民間事業者から意見や提案を聞くサウンディング調査である施設見学会を年数回実施し、ニーズの把握を行っております。</p> <p>今回いただきましたご提案は、現在本市に整備の少ないスポーツ施設について、その愛好家の皆さんの交流人口を拡大し、本市の活性化につなげるというものです。実際本市で同様の事業を展開している民間事業者もあり、ダンスレッスン専用ルームや防音スタジオ等の新設につきましても、市内に複数の民営スタジオが存在することから、民間の事業活動を圧迫しないよう、慎重な検討が必要です。公共施設としては、民営施設との役割分担を考慮し、競合を避けつつ市民の利便性をいかに確保するかが重要な課題となります。</p> <p>今後は、ご提案いただいた「既存施設の多目的な活用」も含め、スポーツ施設の適正化計画等の中で、住民ニーズに即した効果的な運用のあり方を調査・研究してまいります。</p>	
43	19ページ<坂本町の交通・医療・買い物対策>	<p>坂本診療所について</p> <p>週2回午後のみ運用で事足りるのか疑問。3月からの運用で住民からの声をきちんと聞いて欲しい。</p>	<p>坂本診療所の診療日の設定にあたっては、これまでの医療Ma a Sによるオンライン診療の利用状況や、各地域への巡回診療、医療機関への受診状況などの実績を踏まえ、週に40人程度の受診が見込まれるため、診療を委託する八代郡医師会と協議し、対応可能な診療体制として火曜日と木曜日の週2日、12時30分から16時までと設定しています。住民からの意見や受診動向、地域の医療ニーズの状況をみながら、診療体制の見直しなどにつきましては、関係機関と協議を行い適切に対応していきたいと考えています。</p>	
44	30ページ<実践的な市民避難訓練の実施>	<p>防災学習はマストだが、家庭で被災するか、会社で被災するか分からないので、その際の初動活動などについて学習、訓練ができるとういと思う。</p>	<p>災害はいつでもどこで発生するか分からず、ご指摘の通り、自宅のみならず勤務先や外出先など、その時々状況に応じた適切な判断と行動が不可欠です。</p> <p>日頃から家庭や職場での話し合い、地域での防災訓練に積極的に参加いただくことで、いざという時も慌てずに命を守る行動がとれるようになります。</p> <p>市といたしましては、引き続き日頃の備えなど防災情報の発信や「マイ・タイムライン（防災行動計画）」の普及啓発を推進してまいります。</p>	
45	7ページ施策【3】稼げる農林水産業の推進、13ページ施策【8】地域産業への支援と企業・人材の誘致、22ページ施策【16】学校教育の充実、24ページ施策【22】環境保全と循環型社会の推進	<p>施策8を中心に、施策3・16・17・22とも関連</p> <p>TCMC関連産業の進出は、八代市にとって大きな発展の機会です。しかし、工業の発展だけでなく、「食」「農業」「人材育成」を一体で循環させる視点が必要だと考えます。</p> <p>まず、人口増加や産業集積に備え、地産地消の推進や減農薬・有機農業への支援を強化し、安全で持続可能な食の基盤を守ることが重要です。学校給食や企業食堂での地元産品の活用を進めることで、農業と新産業を地域内で循環させる仕組みを構築できるのではないのでしょうか。</p> <p>また、日本全国の産業振興や地域循環型経済の成功事例を学び、市職員が専門的な研修を受ける体制を整えていただきたいと思います。その学びを市民向けワークショップや公開講座として共有し、農業の高度化、半導体関連技術、デジタル活用などを学ぶ機会を創出することで、市民の就労機会拡大につながります。</p> <p>さらに、地元高校・専門学校との連携を強化し、理工系教育やリスキリング支援を充実させることで、八代の子どもたちが将来この地で働き、暮らし続けられる環境を整えることが重要です。</p> <p>工業、農業、教育が分断されるのではなく、相互に支え合う「循環型のまちづくり」を推進することで、八代が持続可能で力強い地域として発展していくことを期待します。</p>	<p>循環型のまちづくりは重要であると考えますが、本市は全国でも屈指の野菜の生産量を誇っており、全国の食料供給基地としての役割を担っているため、食料の安定供給を図ることが最も重要であると考えています。</p> <p>減農薬・有機農業への支援につきましては、環境保全型農業直接支払制度交付金事業にて実施しております。農水省が定めた、「みどりの食料システム戦略」に基づき、今後も推進していきます。しかしながら、有機農業は国の認定のハードルが高く、無農薬栽培を実施されている農業者ですら認定を受けていない状況です。</p> <p>農業の高度化のために、市職員自らが研修を受けることは考えておりませんが、市が実施する「八代農業塾」や「担い手のための農業経営講座」をはじめ、県や関係団体がそれぞれ多くの学ぶ機会を創出しております。</p> <p>また、本市の学校給食では、地産地消を推奨するため、月1回、郷土料理等の献立給食、「ふるさとくまさんデー」を実施しています。この取組を通じて、郷土の自然、文化、産業等に関する理解を深めるとともに、心豊かで健康な生活の基礎を培うこととしています。</p> <p>地元高校・高専との連携につきましては、高校生や高専生を対象とする地元企業の認知向上や交流機会の提供につながる取組を支援することで、地元企業への就労意欲向上を図ってまいります。</p>	

No.	該当箇所	意見の概要	本市の考え方	反映						
46	7ページ<農林水産業の経営力向上支援>	<p>■中山間地農業の支援に取り組んでもらいたい。</p> <p>そのために、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中山間地農業は、耕作条件が不利で農地集約も難しく、効率性が悪い。</li> <li>・その中で、泉町では、別紙のとおり実山椒の振興による農家所得の増大に取り組んでいる。甲佐町では、既に山椒に対する補助を実施している。</li> <li>・八代市でも、山椒や柚子に対する支援をお願いしたいので、基本目標の中に記入し取り組んでいただきたい。担当職員も実山椒に対する認識が弱いと思える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中山間地域農業の支援については、本市独自の農地集積対策事業において、中山間地域の農地集積要件を緩和しております。国の補助事業につきましても、中山間地域が対象となる中山間地域等直接支払交付金制度のほか、中山間地域を対象とした事業には加算ポイントが設けられるものもあるなど、様々な支援策が実施されております。</li> <li>これらの事業を活用しながら、中山間地域の農業の振興に取り組んでまいります。</li> <li>・泉町の地域特産物である柚子や山椒の振興に関しましては、地域振興に重要な農作物であると職員一同認識しておりますが、ご指摘は真摯に受け止めてさせていただきます。</li> <li>これらの支援につきましては、毎年行っております特殊農産物振興協議会に対する補助のほか、国の山村活性化対策等、国や県の事業を活用した支援を実施しております。今後も基本計画（案）に記載のとおり、組織が新たな事業へのチャレンジを積極的に進められるよう支援を行います。</li> </ul>							
47	8ページ<従来の発想を超える鳥獣害対策の実施>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥獣の天敵の活用など従来の発想を超える新たな 対策を検討・実施するとあるが</li> <li>・これはあまりにも非現実的で、実施時期も明確にできないのではないか。</li> <li>・目前の対策として  <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>現行補助制度</td> <td>防護さく、電さく等</td> </tr> <tr> <td>補助率 1/2</td> <td>→ 補助率 2/3</td> </tr> <tr> <td>補助金上限2万円</td> <td>補助金の上限撤廃</td> </tr> </table> </li> <li>・ハンターへのさらなる支援  捕かくした有害獣への補助金 13,000円 → 15,000円</li> </ul>	現行補助制度	防護さく、電さく等	補助率 1/2	→ 補助率 2/3	補助金上限2万円	補助金の上限撤廃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥獣の天敵の活用などの新たな対策につきましては、他県で実施されている「訓練された犬による追い払い」が本市で実施できないか検討しています。また、このほか、他市町村で実施されている様々な取組を参考にするとともに、カモ類などの鳥類被害については、国に効果的な対策の確立を要望しています。</li> <li>・新たな対策の確立に併せて、目前の対策についても、国の有害鳥獣被害対策交付金を活用したワイヤーメッシュ柵及び電気柵の設置補助を継続して実施しています。</li> <li>本事業は地域ごとにまとまって事業を実施する必要がありますが、補助率は2分の1で補助上限はありません。また、自身で設置工事を行い、資材のみを購入する場合は補助率が定額（最大10分の10）となりますので、本事業の活用をご検討ください。</li> <li>なお、本年度（令和7年度）は約20ヘクタールの農地に対し、約1.6kmのワイヤーメッシュ柵等の導入支援を実施しております。また、平成27年度から令和6年度までの10年度で約80kmのワイヤーメッシュ柵等の導入支援を実施しております。</li> <li>・有害鳥獣の捕獲報奨金については、シカが12,000円（国7,000円、県1,000円、市4,000円）、イノシシが7,000円（国7,000円）等としています。これは、本市においては、シカによる森林被害が深刻であるため、国、県の補助金に上乗せをしています。</li> <li>捕獲報奨金は地域ごとに差異がある現状であるため、上乗せの考え方について他市町村と共有し、平準化できないか検討します。</li> </ul>	
現行補助制度	防護さく、電さく等									
補助率 1/2	→ 補助率 2/3									
補助金上限2万円	補助金の上限撤廃									
48	9ページ<食品加工施設を核とした雇用の創出とブランディングの確立>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・泉町では、柚子と山椒の生産拡大に取り組んでいる。柚子と山椒は全国的に不足している状況なので、(株)いずみの加工所の充実を図ったらどうか。例えば、柚子のさく汁が古いので 更新して、生産を増強する。</li> </ul>	<p>現在、国の山村活性化対策事業補助を活用し地域の特産品開発を行い、「道の駅秘境の郷いずみ」にて販売を強化することとしております。</p> <p>今後も農林産物加工施設管理者の「いずみ」とも協議を行い加工施設の有効活用にも努めてまいります。</p>							
49	全体	<p>基本目標1～7における、25のすべての施策に「SDGs目標5：ジェンダー平等を実現しよう」は欠かされません。現在掲げているのは（3）（7）（17）のみです。</p> <p>すべての施策において、直接的に女性や子どもが関わってなくても、その施策を享受する、消費する、利用する、関係するその場所など、あらゆる場面に女性と子どもは関係しています。全く関係ない施策などはないはず。</p> <p>目標5はSDGsすべての目標の根幹をなすものであり、あえて目標5が掲げてあります。市のSDGsに対する認識不足としか思えません。</p> <p>市の今後の未来づくりのための戦略に、目標5をきちんと位置付ける必要があると考えます。</p>	<p>SDGs達成に向けては、「経済」「社会」「環境」の3つの側面から捉え、17のゴールを解決していく必要があります。</p> <p>基本目標5は、主に「社会」の側面を強化する役割を持つと言われております。</p> <p>そこで、本戦略の上位計画となる「八代未来づくりビジョン」に設定したSDGsの目標及び社会的側面の考えを踏まえ、以下の施策にも目標5を位置づけ、SDGsの達成に向けて各取組を推進していくこととします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施策【8】 地域産業への支援と企業・人材の誘致</li> <li>施策【15】 結婚・出産・子育て支援の充実</li> <li>施策【16】 学校教育の充実</li> <li>施策【19】 安心できる地域共生社会の推進</li> <li>施策【23】 市民と一体となった防災体制の構築</li> <li>施策【24】 防災・減災のための基盤整備</li> </ul>	○						

No.	該当箇所	意見の概要	本市の考え方	反映
50	11ページ 施策【6】 観光資源を活用した 賑わいの創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史のある温泉街は八代の貴重な財産だと思えます。日奈久温泉には魅力的な食事場所やカフェなどのくつろぎスペースが不足していると感じますので空き家や空き店舗を活用した環境づくりは非常に意義深い取り組みだと思えます。特に、日奈久のレトロな街並みに惹かれる層も一定程度存在しますので例えば1軒のパン屋さんに対しても確実に支援を行い、結果を出すことが、次の入居者（移住者）や来訪者の増加につながり、街の賑わいを促進していくと考えます。</li> <li>・温泉といえば露天風呂を楽しみに訪れる方も多くと思えますが、日奈久温泉には露天風呂を備えた旅館に限られています。露天風呂の新設が難しい場合でも、温泉浴場の改修などのハード面での支援が望まれます。また、それ以上に空き旅館の増加は温泉街のイメージダウンにつながるため、旅館の存続に向けて、ビジネスマッチングや後継者問題に、貴市にはより深く関わっていただきたいです。</li> <li>・五家荘は外から見るとミステリアスで、一度は訪れてみたいと思わせる非常に魅力的なスポットです。まだまだ知名度の高くない地域ですので、まずは県外の旅行会社によるツアーの設定や、地域を越えたツアー募集の展開など、DMOとしてできることを積極的に推進していきたいと思えます。</li> </ul>	<p>開湯600年の歴史を誇る日奈久温泉は、本市においても貴重な観光資源であると認識しています。しかしながら、時代の流れとともに旅館や店舗の廃業が進み、空き家や空き店舗が目立っています。そのため、本市としては、若い世代が日奈久温泉の空き家や空き店舗などを活用して新たなビジネスにチャレンジできる環境を整えることができるよう、令和8年度から市の組織機構の再編を行い、温泉街の賑わい再生に向け取組を加速させていくこととしています。</p> <p>また、五家荘は、九州の秘境と言われ平家伝説が受け継がれる歴史とロマン溢れる観光地であると認識しています。</p> <p>本市としては、秋の紅葉時期のみならず、年間を通じて観光客を受け入れ、地域が外貨を稼ぐことで地域経済の活性化が図られるよう、登山観光客受入体制の整備などに取り組んでまいります。</p>	
51	12ページ 施策【7】 商業振興による賑わいの創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地の再生にあたっては、「ユニクロ」や「無印良品」などの集客力の高い大型テナントの誘致を検討すべきと考えます。</li> <li>・また、中心市街地の店主の皆さんの意識醸成も重要です。行政の支援を「待つ」だけでなく、自ら新しい街づくりに取り組む「攻め」の姿勢に転じるために、人材育成に関する支援も有効だと考えます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地の活性化や持続的な賑わいの創出を図ることで、集客力の高いテナントの立地など、民間事業者の投資を呼び込む、魅力ある街づくりを進めてまいります。</li> <li>・ご意見のとおり、中心市街地の賑わい創出には、経営者自身が、新しい街づくりに取り組む意識を持つことが、必要不可欠であると考えています。令和8年度より、「まちなか再生推進室」を新設し、行政主導のまちづくりではなく、民間の活力を活用した、「公民連携」によるまちづくりに取り組んでまいりたいと考えています。</li> </ul>	
52	31ページ 施策【24】 防災・減災のための 基盤整備	<p>農業・商業に入れてあるように、ここにSDGs目標5番 ジェンダー平等が無いので入れるべきと思えます。理由は以下。</p> <p>防災・減災に女性の視点は欠かせません。 女性の参画を進め、多様な人たちの配慮につなげる。 固定的な性別役割をなくす。 人口の半分は女性。女性と男性では影響とニーズが違う。 内閣府からR2年に出された「災害対応力を強化する女性の視点～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～」に沿って進めることがこれからの防災・減災に欠かせないと思えます。</p>	<p>災害時には、女性と男性が置かれる状況や受ける影響が異なる場合があることから、男女共同参画の視点を反映した対応や備蓄品の整備、避難所環境の改善を進めることが重要であると本市も認識し、整備を進めております。</p> <p>いただいたご意見を踏まえ、男女共同参画の視点を取り入れていることを明確にするため、施策【25】にSDGs目標5番を位置づけます。</p>	○
53		<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路の整備</li> <li>・駅に向う線路（沿い）が暗い、街灯をつけてほしい</li> <li>・用水路の手入れ（草取り等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路の整備や補修につきましては、各校区から出される地域要望や令和6年8月1日より運用を開始した道路異常通報システム、職員によるパトロールなどにより得た情報を基に行っています。また、都市計画道路などの幹線道路においては国道3号や地域幹線の国県道との広域的な整備を推進し、誰もが安全・安心で快適に通行できるよう計画的に道路の整備を行っています。</li> <li>・具体的な場所が不明なため、一般的な考え方の回答となりますが、街灯には、主に交通の安全確保を目的とする「道路照明灯」と、主に犯罪防止と地域の安全確保を目的とする「防犯灯」の2種類があります。</li> <li>「道路照明灯」につきましては、信号機の設置された交差点や横断歩道、長大(ちょうだい)な橋梁などの、特に安全対策が求められる場所に、状況を勘案し設置しております。</li> <li>「防犯灯」につきましては、それぞれの町内会において設置及び管理をされています。本市では町内会が行う防犯灯の設置又は修繕に係る費用の一部を補助する制度を設けております。</li> <li>・幹線・準幹線等の主要な用水路は、各土地改良区が管理し、支線や末端の用水路は、農業の受益者が管理しています。具体的には、ゴミの回収や泥上げ、草刈り等を行っていますが、農家だけではなく非農家も参加する活動組織によって施設の修繕や改修工事、清掃活動等も各地域において行われています。</li> <li>詳細な場所が不明であるため本市が管理する排水路について回答いたします。排水路敷きの除草等につきましては現地パトロール、校区要望、電話やメールなどにより市民の皆様から寄せられた情報をもとに対応し、維持管理に努めております。また、市民の皆様により清掃作業が行われている地域もあります。しかしながら、地元で清掃作業が行われる地域でも高齢化や人口減少の影響などでその数が減少してきており、市内全域にある排水路の除草等の管理が困難になってきております。このようことから、市民の皆様から寄せられたご要望に対しては、現地確認を行い、緊急性や優先度を踏まえて適切に対応してまいります。</li> </ul>	

No.	該当箇所	意見の概要	本市の考え方	反映
54	11ページ〈日奈久温泉の再生、五家荘地域の観光振興〉の「日奈久温泉の再生」	<p>「空き家や空き店舗などを活用した新たなビジネスにチャレンジできる環境を整える・・・」とありますが、利用できる空き家、空き店舗がどんな状態なのか、今の日奈久温泉街の状況を把握されたうえで話なのかと少々疑問を持ちます。もっと突っ込んだ、積極的な取り組みを行っていただきたい。</p> <p>今の「日奈久温泉の再生」を考える時、現状を知り、何が足りず、どうすればいいのか、刮目して考えることが必要と考えます。</p> <p>『○現状 狭い道路、灯していない街灯、放置された空き家、雑草が茂った空き地、汚い内港の海水、先が見えない旅館・店舗の経営状態、住人の減少（特に若い世代が町から出て行き新たな住人の見込みもない）、町の祭りや行事の運営が難しい、等々 こんな言葉を並べると、ある街づくりの専門家？から注意されましたが、これは現実です。』</p> <p>今、日奈久温泉街が壊れています。まちとしての機能が失われています。「まち力」が無くなっています。県下有数の歴史ある温泉町は、基本的な「まち」の形を失う末期的な状態です。町の衰退は、30年ほど前から徐々に進んでおり、「悪き流れ」の波に乗っています。行政も地元の人でも気付いていたのか、気付いていないのか、気付かないふりをしていたのか。また、「まち」の組織、団体も人材不足で役目を果たしていません。（機能していない、自覚がない？） もう遅いかもしれませんが、あるべき姿の方向性を定めて、温泉街（観光地）としての「まち」、居住できる「まち」に必要な機能を回復させ、抜本的な立て直し策を行うことが必要ではないでしょうか。</p> <p>『案として、区画整理は難しいと思いますので、観光地としての区域を定めて、道路、景観等の整備を行う「区域整理計画（造語）」を策定して、温泉街の再生を進めていくことを提案します。 その時、日奈久にしかないもの「日奈久温泉の歴史」は欠かせないものと考えます。』</p> <p>諸悪の根源は、道路です。これまで、行政による活性化のための検討（計画案）が幾度となく実施されてきましたが、そのたびに課題として挙げられるのが道路でした。国道から温泉街に入る道路は全て片側通行の幅です。生活者にとっても不便で、若い世代が出て行く理由の一つです。</p> <p>日奈久温泉を残すのか、残さないのか、行政に真剣に考えてほしい。地元の人ではもう無理です。</p>	<p>日奈久温泉街も、旅行ニーズの多様化を背景に宿泊者数が減少しており、市の観光統計によると昭和50年代の約20万人から、令和6年には約1万8千人まで年間宿泊者数が減少しています。</p> <p>また、人口減少や高齢化、後継者不足、施設の老朽化など、ハード・ソフトの両面で解決しなければならない課題があると認識しています。</p> <p>そのため、本市では、八代のシンボルである「本町アーケードを核とした中心市街地」と「日奈久温泉街」に元気を取り戻し、本市の賑わいを象徴する地域として再生させるために、これらの地域をまちづくりの重点地域と位置付け、本年4月に、新たに「まちなか再生推進室」を設置することとしています。</p> <p>日奈久温泉街の再生にあたっては、「民間による空き店舗などへの投資」が最も重要であるため、新たに設置する推進室では、これまでの行政主導のまちづくりではなく、行政と外部専門家、地元関係者の方々と「三位一体となった公民連携」によるまちづくりを進めることとしています。</p> <p>民間側に熱い志や本気の想いを持ったリーダーや店主の方がいなければ、行政がいくら再生に取り組んでも効果は上がらないと考えておりますので、民間と行政が同じ目標に向かって取り組む一体的な体制の構築が必要となります。</p> <p>具体的には、職員自身が都市経営や公民連携の知識を習得する人材育成をはじめ、行政と一緒にまちづくりに取り組む熱い志を持つ民間人材の発掘、全国のまちづくりを手掛けてきた専門家による現地調査とアドバイスを基に、地域の関係者を巻き込んで徹底的に議論し、まちづくりの方向性を見出していきたいと考えています。</p> <p>また、日奈久温泉街の道路環境につきましては、道路が狭く通りづらい。舗装が傷んでおり補修してほしい。など、皆様が抱えられているご不便やご要望につきましては十分に認識しております。</p> <p>道路拡幅などの大規模な整備には、用地のご協力や多大な期間・費用を要します。そのため、安全面や緊急性を優先に考慮し、舗装補修など対応できる箇所から順次行っております。</p> <p>また、ご提案の「区域整理計画」につきましては、現在、区画整理の予定はございませんが、本市では、日奈久温泉街の風情を活かした街並みを形成するため、景観重点地区指定に向け取り組んでいるところです。</p> <p>道路等の基盤整備につきましても、景観と調和を図りながら、よりよい整備のあり方を関係部署と連携し検討してまいります。</p>	